

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和5年度第2四半期
(令和5年7~9月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和5年7～9月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和5年9月）	23
4. 特別調査「中小企業の将来を見据えた事業承継について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和5年7～9月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	63	61
卸 売 業	20	20
小 売 業	31	31
サービス業	42	41
建 設 業	31	31
合 計	187	184

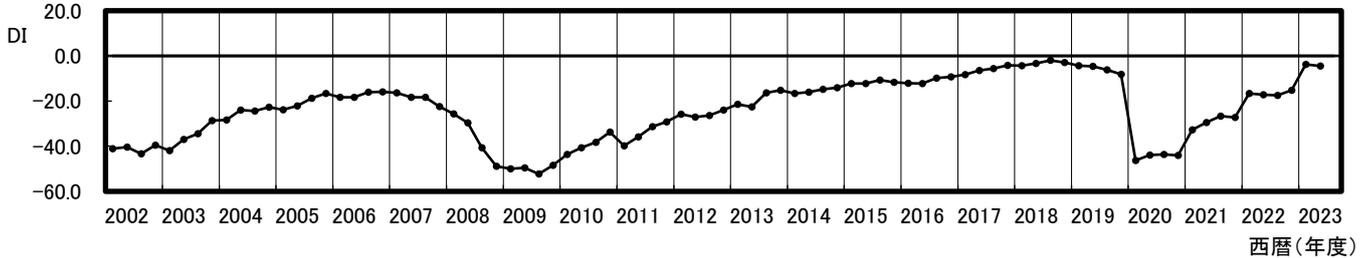
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和5年7～9月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況は前期同様変化なく推移・コロナ前の水準を上回らず

都内中小企業景況・6業種合計 DI



西暦(年度)

今期の6業種合計の業況判断DIは、前期の大幅な改善からプラスに転じることが期待されたものの、 $\Delta 4.5$ （前期 $\Delta 3.7$ ）と前期に比べて変化なく推移し、コロナ前の水準を上回らなかった。

業種別で見ると、製造業、小売業、サービス業、建設業では前期同様に推移し、卸売業、不動産業においてはわずかに悪化した。

来期は、不動産業がやや弱含むと予想されるものの、建設業が今期並の好感で推移し、その他の業種でもわずかな改善が見られると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来期予想	今期との増減
製 造 業	-7.1	-7.5	-0.4	-5.1	2.4
卸 売 業	-5.5	-8.3	-2.8	-4.0	4.3
小 売 業	-14.2	-13.9	0.3	-10.9	3.0
サ ー ビ ス	-2.7	-3.9	-1.2	-1.7	2.2
建 設 業	11.0	9.7	-1.3	10.3	0.6
不 動 産 業	8.2	5.7	-2.5	3.6	-2.1
総 合	-3.7	-4.5	-0.8	-2.7	1.8

<製造業>

業況は前期同様の厳しさで推移した。売上額・受注残は前期同様の増加が続き、収益も前期並の減少幅で推移した。価格面では原材料価格・販売価格ともに前期並の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「原材料高」、「売上の停滞・減少」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況はわずかに改善すると予想され、売上額・受注残・収益においては増減なく推移すると見ている。

<卸売業>

業況はわずかに厳しさを増した。前期増加に転じた売上額はやや増勢が後退し、収益は再び減少を強めた。価格面では仕入価格の上昇がわずかに弱まったことから、販売価格もやや着落きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「利幅の縮小」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況はわずかに改善すると予想している。売上額は今期並の増加が続き、収益はわずかに増加に転じると見ている。

<小売業>

業況は前期同様の厳しさで推移した。売上額においても前期同様の水準で変化が見られなかったものの、収益はわずかに改善した。価格面では仕入価格は前期並の上昇が続き、販売価格はわずかに上昇した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「仕入先からの値上げ要請」の順となり、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は水面下ながらわずかに改善すると予想している。売上額は増減なく推移し、収益も今期並の減少が続くと見ている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続き、プラスに達しなかった。売上額は前期同様の増加が続き、収益はわずかに水面下に落込んだ。価格面では材料価格は前期並の上昇が続いた。料金価格はわずかに上昇幅を縮小させた。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「人手不足」が同率となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況はわずかに改善し、売上額は今期同様の増加が続き、収益はやや増加に転じると予想している。

<建設業>

前期大幅に好調に転じた業況は前期同様の水準で推移した。売上額、受注残・施工高はわずかに増加傾向を強め、収益はわずかに増加に転じた。価格面では材料価格の上昇がやや弱まり、請負価格は前期並の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「材料価格の上昇」、「人手不足」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「人材を確保する」の順となっている。

来期の業況は今期並の好感で推移すると予想している。売上額・受注残・施工高は増加幅を縮小させ、収益は増減なく推移すると見ている。

<不動産業>

業況はわずかに悪化した。売上額は前期同様の増加が続いたものの、収益はわずかに増加幅を縮小させた。価格面では仕入価格・販売価格ともにわずかに上昇を弱めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「商品物件の高騰」、「商品物件の不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況はやや弱含むと予想している。売上額と収益はともにわずかに増加幅が縮小すると見ている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。